

名前：

インターネットはたしかにじょうほうをはやくつたうことができたし、かんたんに見ることもできるようにした。インターネットのはったつでe-bookとか、こじんの新聞サイトもあらわれた。そうだといえ、新聞や雑誌がいらないと言うのは成立できない。

まず、インターネット新聞や雑誌はモニターで見ることでばんかいがある。モニターで見るのは、じょうほうをはやく見ることではできるが、さわることはできない。字一つ、一つをチェックしながら読むこともできないし、わたしか読みたいところで見ることもできない。また、モニターは紙でつくった本よりしりよくとか体力がもって使われるのでストレスをかんたんに感じられる。

じょうほうのせいかくせいにももんだいがある。本とか新聞、つまり紙でつくることはおおぜいな人が書いたり直したりするから入る。たとえば、おもしろいぶんしょうが浮かない時は何日間考え出す。そして、きか

んまでちゃんとしたことをつくらなければならぬ。しかし、インターネットの文はこじんが書きたいことを書けばいいし、有名なサイトでもはやさが命だから紙でつくったものよりていかくせいがへる。

さいごに、ほかんせいがまだたしかではない。パソコンがほきゅうした以来、まだ百年もたっていない。それなのに人間は文をぜんぶインターネットにはこぼうと思っている。インターネットのほかんせいを知るためにはもうちょっと時間が必要なのだ。

私はインターネットがダメだということではない。たしかインターネットの文ははやいしかんたんに見ることができる。でも私は文というのは、じょうほうというのは、もっと人間の手で感じながら読むのがせいせきだと思うのだ。